

あとがき

救急患者の“たらい回し”事件（この言葉はかならずしも適切ではない）に関するメディアの最近の論調は、以前であれば医師批判、病院批判に終始するところが医師不足、勤務医の過重労働、行政の問題とやや医療側に同情する面もみられる。確かに産婦人科、小児科の深刻さは周知のことだが、あまり話題にのらない耳鼻咽喉科を含むいくつかの科についても同様の状況である。

新初期臨床研修制度の良い点として専門科を決める前に多くの科を体験すること、全身的な知識を深めることなど一見理想的な側面がある一方、かつては卒業時に直感的に自分の行きたい科、合っている科を選択していた（将来3Kの科、多忙な科であろうと意外とフィットさせて皆がんばった）のが、2年のゆっくりとした研修の間に余暇の多い科、9時～5時の科、収入の多い科などを比較検討して値踏みするという、理想とは逆の効果を生み出しているのも事実である。大学医局の集中入局を分散させる効果は達成されたが、関連施設には常勤医のいない科が多く存在している。学生6年、研修2年、その後専門科に入るというシステムを急にスタートさせたことで、専門医が仕上がるまでの期間の遅れがさらに人手不足に拍車をかけている。開業医の再診料を引き下げ、病院のそれを上げるとか、勤務医の開業に歯止めをかけるため、開業する前に僻地勤務を義務付けるなど、いかにも付け焼刃的な対応策がメディアをかけめぐっている。

もし後者の制度を導入するのが現実となった場合、制度発足直前までに駆け込み開業が殺到して市中病院が深刻な状況になることが容易に想像される。制度の見直しをするとすれば、必修科を減らしてせめて1年の研修に短縮するしかないのではないかと。この制度の波及効果として大学基礎医学系も深刻になってきており、以前は臨床から基礎に勉強に行っているときに興味をもちそのまま基礎医学者になる医師がいたが、そのチャンスと余裕が減ってきている。基礎医学の発展も危ぶまれる。将来はかなりの講座で医学部出身者でない理学部、獣医学部出身者が教授、准教授として医学生を教える可能性もあり、大切な解剖実習などが最も先にその状況になると思われる。医師、患者双方のために行政の理想的な打開策が望まれる。

（吉原俊雄）

編集顧問

大和田健次郎

佐々木 好 久

曾 田 豊 二

坂 井 真

小 田 恂

編集委員

八 木 聡 明

竹 中 洋

吉 原 俊 雄

耳鼻咽喉科・頭頸部外科（第80巻 第3号）

発 行 株式会社 医学書院

2008年3月20日発行（毎月1回20日発行）

代 表 者 金原 優

定価 2,730 円（本体 2,600 円＋税 5%）

〔2008年年度予約購読料 39,950 円
増刊号を含む13冊、税込・送料小社負担〕

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5710（担当 西塚・中田）

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802（編集室）

E-mail: jikotokei@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・医学書院ホームページ(インターネット)は

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/>です。

・「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」のページは

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jikotokei/>です。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信（送信可能化権を含む）に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ICIS<（株）日本著作出版権管理システム委託出版物>

・本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に（株）日本著作出版権管理システム（03-3817-5670）の許諾を得てください。